

たかやなぎかつみと

発行責任者 高柳 勝巳

〒378-0055 沼田市柳町2570-11

割田アパート2号

歩む会 ニュース

04年6月25日

NO 8号

TEL・FAX 0278-22-6860 Eメール kt.takyanagi-710@au.wakwak.com



「全面開通」した望郷ライン（全長32km）白沢初穂カントリー上付近からの眺望

総額約450億円で、農地などを土地改良し、市街地を通らず6市町村をつなぐという。観光農業等付加価値をどう付けていくのかが、利根沼田全体圏域の大きな課題となると思います。

♪ジャンジャジャ〜♪ 今回から歩む会ニュースを「新形式」にしてみました。沢山の方々から、様々ご意見をいただく中で、「文字ばかり」は共通しておりましたので、今回、確定申告によって多少税金が戻ってきましたので、思い切ってデジカメを購入して、写真など入れて構成も一新してみました。とは言っても、私の人間性や感性が変わる訳ではないので、内容の変化はないと思います。

6月定例議会は、8日から16日まで 休会を挟んで、9日間の議会となりました。一般質問では、5人が質問に立ち、様々な観点から市政への要望、指摘、提言などを展開しました。

今回は、申し訳ありませんが、私は質問できませんでした。『今の沼田市には課題がないのか！』とお叱りを受けるかもしれません。材料は山ほどあるのに、コックさん（つまり私）の腕が悪いため、今

一般質問質疑応答要旨

【市政公開に対する認識と姿勢は？】

今や、情報公開は当然の時代といわれ、『公開なくして改革なし』とまでに至っている。他市町村では、いくつか取り入れていると聞く「庁舎内オンブズマン制度」導入の意思はないか。

また、公開を進める上で、もう一方の個人情報保護についてはどう考えているか。県内10市ではすでに取り入れているがどうか。

【市長】

公平・公正、不偏不党、市民参加の基本認識で

今日まで、市政を預かってきた。今後も変わりはないが、庁舎内オンブズマンについては、今後の

【※第四次総合計画の評価と今後】

H13年に策定された沼田市総合計画は、4年目を向かえている。（残り1年）これまでの進捗状況をどう評価しているか。また、合併を目前に未達成主要事業の今後への対応はどうしていくか？

【市長】

グリーンベルトテナント問題、街なか再生事業に始まり、今年は、昭和モダン懐古博、東小学校学童保育、榛名分教室の分校化など、ローリングとヒヤリングを繰り返しながら、取り組んできた。

財政問題等様々な、理由で未達成の主要事業は沼田小学校の改修、沼須団地、横塚生品工業団地などが挙げられる。

合併との関連でいえば、新市建設計画策定の段階で、合併以前の各自治体の総合計画は尊重されるので、その中へ反映させるべく努力したい。

【高等教育機関の誘致と 千葉大園芸学部の利用は？】

千葉大学は法人化となり、ますます地域や企業

との連携を模索せねばならない状況下に置かれ、洋ナシの市内への仮植など始め、積極的になってきている。一方、群馬県でも様々なアクションが

出てきているが、川田の県有施設の市の取得と合わせて、一步踏み出せないか？

【市長】

利根沼田の将来産業は農林業と常々考えているし、地域づくり・国づくりの基本的考え方も、これまでの、人口偏重型から面積考慮型へシフトしていくべきと考えている。

県の市町村共同の「農政プロジェクト事業」へも積極的に関与して、地域の動きと県との間の

【利根西部の合併法定協を「休止」 とした経過とその説明を！】

西部の法定協は事実上「解散」状態なのになぜ

「休止」なのか。市長は西部の各自治体へこれまで十分に誠意を持って対応してきた。引きずった形では、今度は逆に東部の2村（白沢・利根）に失礼ではないか。また、東部との合併の理念はあるのか。特例期限に振り回されてはいないか。

【市長】

5月10日、16日での4首長会議～正副委員長会議を経て「休止」を決めた。私は、一昨年の1月10日以来、終始一貫『利根沼田は一つ』を訴えてきた。その自分の口からは解散は言えないし、大同団結の可能性の光明が少しでもあるのなら、その道は開いておきたいと考えた。東部の2村も、西部の3町村も『利根沼田は一つ』の気持ちに変わりはないと信じている。この気持ちを理解していただいての「休止」です。

東部2村との合併の理念という点で申し上げるならば、端的に言って「水路と道脈」となると考えている。水は、利根村から白沢を通して沼田へ

【若干の補足です。】

利根西部は、この6月議会で、3町村での合併法定協設置を議決し、「人口約2万5千人の新町」発足に向け動き出すようです。

利根東部との合併法定協は、現在4回まで終了しています。6月25日の利根村で開催予定の第5回の法定協が終了すると、こちらも8月頃には、「廃置分合」と言って旧自治体を廃止して新市（名称は沼田市で人口約5万5千人）を誕生させるための手続きが成されれば、来年の1月頃「新市」となる日程となっています。

川田の県有施設（地蔵橋脇）



※総合計画とは？

自治体建設の長期計画で5～10年で策定しているケースが主流。個別具体的な内容ではなく、抽象的な青写真と考えると良い。

家を建てる際の住宅会社への施主の希望と考えると良い。合併の際の「新市建設計画」も10年間の総合計画と考えるとわかり易いと思います。

【介護保険に関する改善要望】

介護保険がスタートして3年で利用者は倍増となっている。政府は激増する介護関連費用に対して介護保険改革本部を設置し、年末には「改革案」をまとめ、明年の通常国会へ法案提出を考えているようである。そこで、地域・現場の実態を踏まえ、以下の要望を国へして欲しい。

- ①介護保険に関わる利用者負担増へ反対して欲しい。
- ②低所得者向けの利用料等の免除措置は国の責任において整備して欲しい。
- ③特別養護老人ホームなどの基盤整備や予防対策の拡充して欲しい。
- ④障害者支援制度と介護保険の統合に反対して欲しい。

【市長】

6月4日に出された、政府の骨太改革方針の介護保険改革が地域や現場の実態に即したモノとなるよう期待している。社会保障制度審議会で「低所得者」の定義を定めると聞いている。老人ホームは小規模多機能型が見直しの中心に据えられてくると認識している。財政が非常に厳しくなっている障害者支援制度との統合については、全国市長会でも「慎重姿勢」である。

【質問者】

問題意識は、そんなに私と変わらないと思われるが、人口4万7千人を代表する市長としての意志、姿勢とアクションの問題だと思う。傍観的に感じる面がある。

老人ホームにしても、不足で、きちんと保険料を払っている人達がサービスを受けられないのは理不尽だ。

【市長】

保険制度は国全体の問題なので、市長会などの組織で歩調を合わせて行かなくてはならないと考える。市長会でも介護で言えば具体的な数値まで上げて、要望している。

昭和村の老人ホーム建設の遅延の県は心配している。（それを受けて）ききょうの里のベット数

【農業政策について】

米の新たな生産調整といわれる「水田農業構造改革」について、どう考えているか。減反や転作

は農業者の自主性に任せられないか。

農産物の価格保障制度はできないか。中山間地

直接支払い制度交付金をし単独で継続できないか。

【市長】

新たな仕組みの生産調整となる「地域農業推進

ビジョン」づくりを進めることが、本道と考えている。H16年度は量で1732t、面積で320ヘクタール、56%の作付目標。生産調整は「価格の安定」に必要と考えている。

野菜の価格保障制度は「積み立て方式」ですでに存在している。中山間地直接支払い制度の状況は、対象面積204hで、625人に対して2794万円が支払われている。

H16年度までの国の補助制度だが、市単独では財政的にとても無理である。

【質問者】

農家の方々に何うと、いわゆる「とも保障」の額が激減したと聞かすが、どう把握しているか。

野菜が大切でない訳ではないが、やはり米は日本の主食なので食料自給率の観点からも一定の保護は保っていくべきではないのか。

【経済部長】

一定生産者（団体）の意見を聞きながらできた

制度で単純に前年度と比較できないから「新たな制度」となっています。

また、米の消費量の変化も大きく影響しております。以前は一人当たり年間118kgであったものが、H15年には59.5kgと約半減してしまっていることもご理解願いたい。沼田の米は

中山間地域直接支払い制度って何？

農業を営むのに、平地と山間地ではハンディがある。具体的には「傾斜」ということで、急傾斜と緩傾斜の2区分で、農家の方にグループを形成してもらって、そこへ上述の内容でのお金が支給されている仕組みです。

来年から、この制度がなくなるとどうなってしまうのだろう？と考えたり、じゃあそれ以前はどうしていたんだろうという率直な不安や疑問が生



【ねんりんピック成功に向けて】

今秋開催予定のねんりんピック群馬の「なぎなた会場」として沼田市が選ばれたことに意義深さを感じると共に、全国から訪れる方々へ本市をアピールできる絶好のチャンスと捕らえて万全の体制で臨むべきと考えている。そうした観点からいくつかの具体的質問に答えていただきたい。

- ・旧姓大平ヤスコさんなどなぎなたで活躍した人達の歴史紹介を会場でするなどできないか。
- ・市のPRや案内、仮設トイレなど受け入れ態勢は万全か？
- ・「感動」を与える企画は考えているか。
- ・歴史のあるなぎなたの振興策は考えていないか。

【市長】

高齢者が中心となって訪れるであろうこの大会を「力強い大会」「人情のもてなし」をキーワードとして取り組んでいる。屋外仮設トイレの設置

沼田中学校校庭の臨時P、観光との連携は通年的な課題であり、インターからの案内、関係者への事前PRなど順次着手している。

活躍した方々の周知については前向きに検討していきたいが、なぎなたの振興策として、道場の



【青少年のスポーツ振興 および観光との連携について】

先般、市内の少年野球チームが全国と関東大会への出場を決めた。新聞等にも掲載され、健全育成のみならず、沼田市のPRにも大きく貢献していると考えている。行政として助成制度の拡充など検討できないか。また、観光との連携で言えば「アップル杯」など設けて、スポーツ振興との相乗効果を計れないか。

【教育長】

大会参加助成については市の規定に基づいて精一杯努力をしている。他市との遜色はない。

（個人へ5千円、団体へ2万円）遠征が遠方になると心苦しい部分もある。

【市長】

スポーツ振興による街おこしには、様々な波及効果があるので賛成だ。しかし、いくつかのスポーツ大会注視しているが、やはり「民」が先行し行政がこれをバックアップしていく方式がベターかなという印象を持っている。



【21世紀の森の総合活用を！】

全国植樹祭後のこの森の整備が順調に進んでいないと理解している。藤岡市、伊香保町などのように市が管理運営主体となって、総合的活用ができる地域へ早期にしていける必要があると思うがどうか。

【市長】

不抜の森として手をつけない地区との位置付けがあった。しかし、野外音楽会や青少年のキャンプなどイベント開催するための最低限の基盤整備は行なわないと、この地域の良さも生きてこないと認識している。隣接自治体との関係もあり、市単独で歯切れ良くとは行かない面もあるが、努力したい。

【質問者】

21世紀の森活性化対策会議では、近隣での農業体験等を研究している。また、第5次首都圏整備計画の中では、北関東の定義としてレクリエーションや観光地域として明確になっている。望郷ラインなどと合わせて、行政区にとられない振興策として、是非発展させて欲しい。

【市長】

まったく同感。先日、ある災害対策の専門家と話をした。この地域は良い意味での「疎開」の歴史を持つ地域と聞いた。新宿区長が市内出身の方で、都市と地方の「交流」（都市にない

じてきます。



【アニマルプラザ事業の早期着手を！】

アニマルプラザ事業は第四次総合計画の中に明確に「観光振興事業」としての位置づけがあり、小動物を軸として、今風で言えばヒーリング（癒し）効果も期待しつつ、子供広場やドックランドなどのコンセプトで展開されていくはずだった。

農用地整備が遅れ、それを契機に実施主体の群馬県との「温度差」が生じ難航していると聞く。

この件の窓口が県では「健康課」などとなっている状況を見た時不安を抱く。実施へ向けた今後への考え方を伺いたい。

【市長】

県議会時代、この計画当初の構想イラストは壮大なものであったと認識している。それからすると、やや縮小の感は否めないが、努力していきたい。県は当初「買収方式」で進める計画だったと記憶している。非農用地の生み出し方式へ変わっ

老人センター建設請負契約を締結
本体工事落札価格約2億9千7百万円

ねんりんびっく会場となる市民体育館
21世紀の森野外ステージ
佐山町動物管理センター玄関



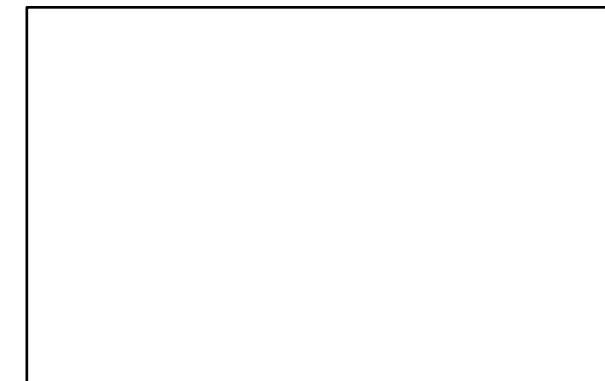
築後、30年を経過し、老朽化した白岩町の老

どんな施設へ生まれ変わるのだろう？
新しくなっても「気軽」がいいね！

人センターの建設工事が落札されました。木造平屋作りで面積は約1460㎡、来年の1月末日を目途に工事が始まります。

解体されサラ地になっている老人センター跡

付帯工事（電気・空調など）をプラスすると4億円台になる新しい老人センター。『きれいになったら敷居が高くなって、通い辛くならないで欲しい』という声が多かったと聞きます。



平面図

懸案の議会だより発行は？

新市になる前に創刊まで漕ぎ着けたいのです

その後の経過は？

【4月19日】3月議会中に開催の議会運営委員会で確認された「研究会」の初会合が開催されました。メンバーは、私の他に以下の5名です。

- ・金井康夫氏（改革クラブ・公明）
- ・石田宇平氏（平成会）
- ・山崎義朗氏（沼勢会）
- ・角田康夫氏（リベラル21）委員長
- ・井之川博幸氏（日本共産党）

（主な話）

- ・以前から、発行への努力は水面下で成されて来た。良い機会だ。
- ・この委員会の位置付けが良く分からない。発行していく機関なのか、論議をする場なのか。
- ・発行へ向け努力しているが、様々な課題があるので発行に至っていない経過を議員は理解すべき。具体案もないと財政問題と期限もあり、困難は明白。
- ・議会だよりの「公平・公正」の確保が兼ねてからの課題だった。具体案は？
- ・請願者の「願意」が不明朗。

【5月2日】

上記のような討論でしたので、請願者の願意の聴取を正副委員長で、他市の状況を議会事務局で調査をし、次回の研究会へ持ち寄ることとなりました。そこで角田康夫氏と二人で請願者代表の角田栄一氏宅を訪ね、お話を伺いました。

（角田氏願意の趣旨）

『発行回数は、原則年4回。編集委員会が、原稿依頼やレイアウトまで、ほとんどを担当する。一般質問の掲載方法については、まとまらない為、各会派が持ち帰って議論してもらおう。次回は6月議会中。』

- ・広報ぐんま程度のモノをイメージしている。（ページ数、内容など含め）配布数は市内全戸。
- ・一般質問や常任委員会を偏らず、分かり安く。

- ・経費がネックなら、広報ぐんまと抱き合わせなどして工夫も含め、とにかく発行を！願意が不明なら説明でも何でも惜しまない。

【5月18日】第2回研究会

上記内容と他市の状況を踏まえ、議論いたしました。結果は概ね以下の通りです。

上記の集約を受けて、6月議会の研究会は延期となりましたが、私は今「議会だよりモデル」の作成に奮闘中です。

他市の議会だよりを読んだり、インターネット

ヒモ付きの補助金などでなく
地方が自立できる自治体経営費を！

での情報を見ていて、感じることは「魅力」ある議会だより作りへ編集委員さん達は、日々努力もし悩んでいるのをヒシヒシと感じました。

詰まるところ、魅力とは紙面を飾る技術などではなく、議員個人個人のひた向きさと、委員会での真摯な調査研究、議会での真摯で活発な議論そのものに行き着いてしまうなあ…。と痛感いたしました。

ハイビジョンテレビなどが開発され、視覚という点で言えば、出演者の毛穴まで鮮明に写し出される時代に何故、テレビ放送でなく、ライブの試合やコンサートへファンを駆り立てるのでしょうか。技術に溺れることなく、ありのままの姿を率直に公表していく「姿勢を決意する」ことこそが、議会だよりに求められている一番の要素ではないでしょうか。

本会議の初日には、議会からの議案提出として「地方分権を確立するための真の三位一体改革の実現を求める意見書」という長いタイトルの意見書を国など関係機関へ提出することを全会一致で決定しました。

これは、どうゆうことかと言うと前回のニュースから引用すれば、沼田市の総収入約170億円の中の自主財源+借金=113億円です。残りの約57億円は「地方交付税37億」+「補助金2

**沼田市税条例の一部を改正する条例
住民税均等割り税率水準の見直し、均等割り税
同一生計妻の非課税廃止、老年者控除の廃止など**

0億」となっているのです。

構成は二段論法となっていて、まず、補助金の部分を交付税へ一本化しなさいということ。例を挙げれば補助金とは子供が小さい時の「おこづかい」のようなもので、判断力も乏しく無駄使いが多いから、欲しがるときに『何に使うの、もっと安いのはないの？まだ、あなたには早いわ』などと金額や使用法に注文をつけ管理するヒモ付き財源だったのです。

子供もやがて大きくなり、いつまでも親のいいなりでは将来が心配です。そこで補助金を自由に使えるお金に変えて欲しいという意見が一点。

こうひとつは、借金の部分です。どう節約しても、自主財源 + 地方交付税の総額では標準的な行政サービスの提供さえ厳しい地方の実情に耳を傾けて増額して欲しい。

というかなり乱暴な説明ですが、要はこんな趣旨です。

議会には、「専決処分」という事項があります。簡単なことですが、緊急性を要するもの（事故など）や上位機関で決定された法律や政令などが期日の関係で、年4回の定例議会にタイミング良く事が起こってくれませんで、市の当局が責任を持つ

て実行 **迷い、悩み、葛藤し続けま**させてもらって、議会へ「事後承認」を得ようとすることを言います。

今年の3月の「大荒れ国会」で成立したこの「地方税法及び国有財産等所在市町村交付金及び納付金に関する法律を一部改正する法律」もこの専決事項で4月1日からすでに実行されている行為の承認と言うことになります。（タイトルからは、内容の想像もつきませんが…）

【1】個人住民税均等割りの見直し

①現行年額2000円の個人住民税均等割り額を3000円となります。

対象者約1万5千人で約1457万円の負担増
②妻の非課税措置の廃止も段階的に行なわれます。
対象者約3000人で
H17年分579万円の負担増
H18年で1158万円の負担増となります。

【2】老年者控除の廃止

65歳以上の人で、年間所得1千万円以下の人
の課税控除50万円が廃止されます。
対象者1400人でH18年から適用3200万円の負担増となります。

近鉄・オリックスお前もか！

合併にみる実態と将来

この条例「改正案」に私は、賛成を投じました。現状以下になる施策は断固許さないという観点から言えば、私は間違いなく失格となります。

「苦渋の選択」であったのは勿論ですが、保留や中間という立場も議会には存在しません。

『自主財源が脆弱で必要額とされる約50%しか確保できない沼田市にあって、ムリ・ムラ・ムダの徹底排除をしても尚、財源不足の解消は計れないのではないか？市内在住者のどこかで誰かに応分の負担してもらって、そのことの説明責任と実行責任を果たしていくべきではないか？』

と考えたのです。

ムリ・ムラ・ムダが何処にどのように存在し、住民の応分の負担の適正值とは何処に置くべきなのかなど課題は本当に尽きないと思います。

今回の条例案は全部で数十項目にわたり、議案を受け取ってから意思を決定するまでの数日での「自分に蓄積された総合知識」の範疇の判断ということになります。（結構乏しい判断？）

これからは、住民のみなさんにとって「朗報のみ」と言われる条例の改正は、極めて少なくなってくると思います。

真の地方分権を確立していくためには、「受益と負担」の論議は避けては通れません。今後も、事あるごとに悩み、葛藤し続けたいと思います。

もちろん、一定の方向や方法が見出せる事が望ましい訳ですが…。

利根沼田の合併問題が大きく揺れ動く中、プロ野球でも合併問題が急浮上してきている。

『幸せになりたいけど、がんばりたくない』

本当にこれでいいの？参議院議員選挙を前にしての独り言

球場に足を運ぶ地元ファンと商店街、球場経営責任者は降って湧いたような話に、困惑と怒りの混ざった複雑な様相を呈しているようだ。

『近鉄から申し入れたとすれば、対等でなく吸収合併かな？』こんな感想を持ちつつ、テレビや新聞の情報を見る。誰も、それぞれの立場で一生

大人が疲弊している社会だもの
子供達に希望が生まれる訳がない！

懸命プレーをし、応援をし、球団の経営に当たってきていたはずだった。しかし、負債総額は近鉄だけで400億と聞く。

『今までと同じ方式はとれない。』責任の所在を別とすれば、共通のキーワードとなろう。

「巨人戦に頼ったり偏った経営体質」や「野球そのもののショービジネスとしての価値の在り方」「ファンの負担増による維持方法」などがマスコミを通じて伝わってくる。『もっと早くからこの課題へ取り組んでいれば、こんな事態は回避できたかもしれない。』

同様のことが、自治体の合併にも言えるのではないのでしょうか？当面、合併すれば財政問題からは一時避難することができる。しかし、特例債や交付税の合併算定替え、首長や議員定数の減による「財政効果」は、一時的なものです。

病気の際の点滴と同じようなもので、贅肉を削っ

「経済」という怪獣が世界中で猛威を奮っている社会の在り様を聞きたい

て筋肉や体力を付け、心身ともに健康な体にならなくては、たちまち再入院や手術が必要になってしまいます。

大切なのは住民の幸せの追求が持続可能な体質へ転換できるかどうかではなかろうか？プロ野球に習ってこちらにも熱い議論を交わし続けたいものです。

「普通の国」の行き着く先は？
イラクとアルカイダの因果関係は否定された。

上記の『♪幸せになりたいけど～頑張りたいくない～い。楽にいこうぜ！○×△サン♪』はテレビの栄養ドリンクのCMの有名歌手が歌う一節です。

正直だけど悲しい響きに感じます。皆さんはど

まず、政治家が率先して襟を正せ！
年金問題に見た規範の在り方

う感じますか？やはり今の日本じゃ、どう頑張ったってタカが知れていますか？

三菱自動車の一連の「欠陥隠し」で、あるテレビでのトラック運転手への取材の1コマです。

Q『こんなに欠陥が露呈して、三菱の車怖くないですか？』

A『三菱の車、運転し易いし、どんな事故があっても我々は（個人で）気を付けて運転するしかないんですよ。（結局誰も助けてはくれないし、役には立たないのだから…）』

怒りの言葉を当然期待していた取材のアナウンサーは一瞬、次の言葉が出ませんでした。怒りではなく「アキラメ」にも似た1コマには、私自身も悲しくなりました。

大人が諦めてしまっ、子供世代に未来や希望がバトンタッチできるでしょうか？

昨年議員研修で、訪れた高山市での講演者丸山

ズバリ争点は理念なき多数派と虚脱感

氏の言葉「大人が子供を育てるのではなく、大人は社会を育て、社会が子供を育てるのだ」が胸に突き刺さります。

先日、何度も断っている証券会社の若手勧誘員の方から早朝電話で『今朝のニュースご覧になりました。イラクの石油パイプラインがテロで破壊され、原油価格が跳ね上がることは、間違いありません。買えるかどうかとも分からないくらいおいしい投資のチャンスです。この機会に是非…。』

怒りの一票、今度こそ！

う必死の訴えでした。人が何人も亡くなってしまったという惨事でさえ、金儲けにしてしまう現代に改めて、朝から憤慨してしまいました。

戦争を仕掛ける理由などまったくなかったことが明白になっても、アメリカに追随し、アメリカ

が壊した国へ、武器を持った自衛隊を「復興支援」として送る国を「普通の国」と呼ぶなら普通でなくて結構です。

世の中、結局「勝つか負けるか」「表か裏か」「強いか弱いか」の二つにひとつ…。だから、弱肉強食、政治も小選挙区制度による二大政党…。多様な国民の政治意識など、取り入れていたら百年たっても「普通の国」など目指せない。今がチャンス強行採決、ナンその！

規範を示すべき立場の国会議員が自ら決めた規則を破り保険料を納めず、「人生色々」で済ませ必要になった高速道路を「特別事業」として復活させ、穴の開いたバケツに何度も血税と言う水を入れさせ、「もうなくなつた」と国民にネダルお粗末。

自社製品の欠陥を恥ずかしげもなく隠し続け、明るみに出れば改善計画と証した内容は現場社員の首切り。こんな日本の状況では長崎の女子小学生でなくとも、理不尽な衝動へと国民を駆り立てるのも無理はない。

「数合わせの政党」「理念なき多数派」の連立時代と言われる今日にあつて、特定の支持政党がないのではなく、政治そのものに「不信感」や「虚脱感」を覚えてくる「大人達」が多数を占めるているようにも感じる。「何故こうなるの？」という疑問符が「だって、しょうがないじゃん」という断定言葉に屈しているようだ。

あえて言います。敵は本能寺にあり！こんな時代にしてしまっている張本人は、政党や政治家、そして腐敗した大企業などではなく、それを甘んじて許してきてしまっている「オトナ」な私達自身の弱さ、怠慢にあるのではないのでしょうか！